

被災地で 応急給水を支援した 職員に聞きました!



2人は、被災地で応急給水を支援したことがあるんですね。

はい。私は平成23年の東日本大震災で宮城県岩沼市へ、平成30年7月豪雨では愛媛県宇和島市へ行きました。

私は平成28年の熊本地震で熊本県菊池郡の大津町と菊陽町へ行きました。

具体的にどんなことをしたんですか?

給水車を運転して被災地へ向かい、現地の浄水場で水を補給して、住民の方が待っている給水所へ届けました。



被災地はどんな状況で、住民の方はどんなことに困っていましたか?

断水で水道が全く使えず、お風呂やトイレも思うように使えない日々が続いていました。

給水所で並んでいるのは、ご年配の方や小さなお子さま連れの方が多かったと思います。

飲料水を入れるためのポリタンクを持って来る方は少なく、ペットボトルや焼酎の瓶など、家にあった容器をかき集めて来られていて、飲料水を求める人たちが長蛇の列ができていました。



飲料水を入れた後は、重さで持ち運びに困っている方も大勢いました。

活動の中で印象的だったことはありますか?

東日本大震災のときは、地震と津波で広い範囲が被害を受けました。特に、海沿いの変り果てた街並みには言葉を失いました。



これまでの経験を通して、お客さまへアドバイスをお願いします!

災害が少ないと言われている香川県ですが、災害はいつ起こるか分かりません。

災害時の断水に備えて日頃から飲料水を備蓄し、給水所で飲料水を入れるための清潔な容器も備えておきましょう。こんな給水袋もあり、ホームセンターで手に入りますよ。



そのほかにも、断水に備えた防災グッズがあると便利です。

この給水袋は運びやすそうで良いですね! 水を運ぶ台車などがあると便利です。

家庭でできる、断水への備え

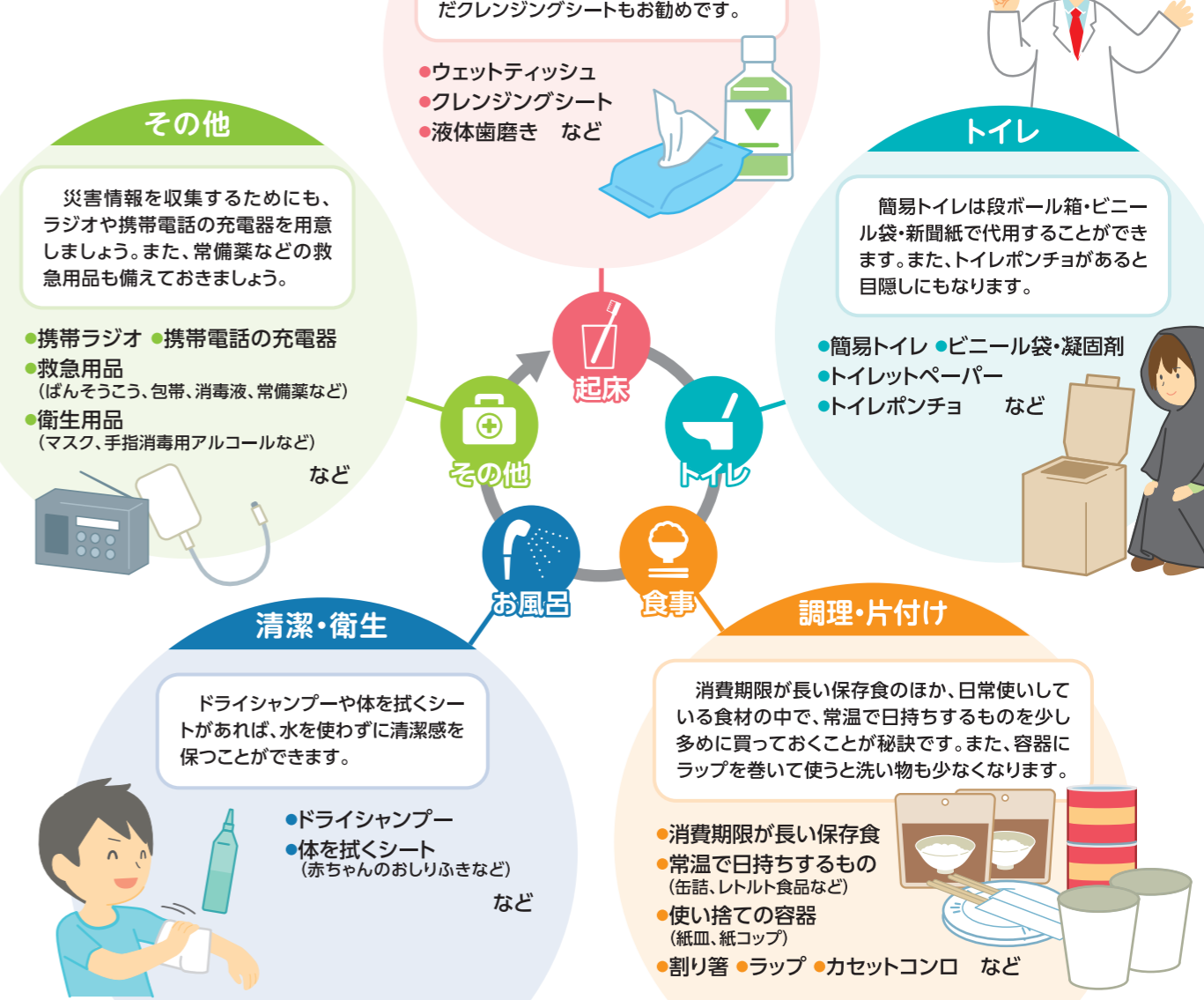
大規模な災害が発生すると、水道をはじめ、電気やガスなどのライフラインが止まってしまう可能性があります。復旧するまでの間を自分たちで生き延びるためには、一人一人の備えが重要です。

まずは日常的な水の備えから!

災害発生後、応急給水体制が整うまでに3日程度かかる場合がありますので、**1人1日3L×3日分**の飲料水を備蓄しましょう。また、お風呂の残り湯は生活用水として溜めておきましょう。

飲料水を入れる清潔な容器の備えも忘れずに!

備えておきたい防災グッズ



その他の防災グッズ

各自治体が発行している冊子も参考にして、災害への備えを万全にしましょう!

各自治体発行の冊子はこちら

- 高松市HP
- 三木町HP
- 綾川町HP